

# 人間と社会 I・II (国際関係学部)

## 授業概要

(人間と社会 I)

考古学に対比させた造語として「考現学」という用語がある。考古学は地層を掘り、出土されたものをもとに古きを考察するものであるが、考現学は「現代社会」という地層から「人間関係」という出土品を得る。そこに、ゴッドハンドは不要である。

ゴッドハンドの代わりに必要とされる知識・技術として、「社会学」的発想を身に付けて欲しい。

(人間と社会 II)

前期に開講した「人間と社会 I」の内容をさらに発展させ、どの時代・地域でも普遍的に支配する「人間関係」の法則性を主として解説していくことにしたい。その法則性を知ることによって、「現代社会」を特殊か否かを見る目を養うことが出来るようになるのである。

## 授業計画

(人間と社会 I)

「人間関係」発掘のための基礎知識・技術を身につける。そのために、「社会」や「人間」の法則性を知る必要がある。我々は「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付けてきたため、「社会」とのかかわりを拒否してしまうと、自分を「人間」以外の生物に変えてしまうおそれがある。まずは自分が「社会」を理解した「人間」となる必要もあるだろう。

- \* 社会生活では、「原因」と「結果」が常に一定であるとは限らない
- \* 誰かにすぎりたくなるのは仕方ないこと
- \* 演技力がなければ人間になれない
- \* それでは思いが伝わらない！
- \* 「らしさ」を培養されたクローン人間

(人間と社会 II)

社会学は、「考現」にこだわったり「考古」を否定したりするものではない。現在と過去、そして未来を広く展望するのである。

そこで、当たり前であるがゆえに(君たちに)見過ごされてきた「人間」と「社会」との関係を、社会学理論にしたがって解説していきたい。

- \* 「思い通り」に行かない時、人間はどうする？
- \* 犯罪とアノミー
- \* 「指切りげんまん」って何？
- \* 「常識」を盾にする非常識な人々
- \* あなたを支配する「目に見えない力」
- \* 雇われ人が儲からないこれだけのワケ

**教科書** 服部慶亘著『ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学』人間の科学社

## 履修条件

講義内容を単なる「理論」として学ぶ学生よりも、「実践」を伴うものとして積極的に吸収しようとする意欲のある学生の参加を期待する。

## 成績評価

極端なまでに(理由もなく)出席状況の悪い者には単位認定しない。評価は終講試験と平常点で行う。

## その他

「人間と社会Ⅰ」「人間と社会Ⅱ」を両方とも履修することが望ましい。

担当者不在時の連絡事項・質問受付などをインターネットで行いたいと考えているので、アカウントを取得していない学生は、出来るだけアカウントを学内の情報教育センター、またはプロバイダから受けてほしい。今後、インターネットは国際社会の激変に対応する必須ツールとなる。なお、学内でアカウントを取得するのは無料である。